

- 1 時 間 平成24年9月5日(金)
- 2 題 材 名 「君は[最後の晚餐]を知っているか」
- 3 学習空間 2年1組
- 4 題材について

- (1) 本題材は、布施英利が中学校2年生用の教科書教材のために書き下ろした評論文である。レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた「最後の晚餐」を「かっこいい。」と表現し、その根拠を分かりやすく説明している。また、本題材は、誰もが知っている「最後の晚餐」を題材とし、生徒の興味を引く内容になっている。初めて読む評論文としては難易度も適切であり、評論文について理解を深めることができる、すぐれた教材である。

この教材を通して、学習指導要領における「C 読むこと」の「ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめること」を目指す。

また、指導の最後には、筆者の最も言いたかったことは何か、根拠と共に記述させることによって、学習指導要領における「B 書くこと」の「ウ 文章の構成や展開・表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること」を目指すと同時に、さらに評論文(本教材)への理解を深めさせることにつながる。

- (2) 本学級は、男子生徒、女子生徒共に、積極的に活動に取り組み、挙手発言も多く見られる。国語は大切な教科だという認識も多くの生徒が持っている。しかし、国語の勉強に楽しみを見出せる生徒は決して多くはない。

中学校1学年時に、説明的文章として、説明文・記録文・随筆を学習している。小学校でも説明的文章を扱う機会があったので、その性質について、ある程度の理解はできている。しかし、説明的文章に含まれる評論文は、今回初めて学習する。そのため、評論文についての知識は非常に乏しいと言える。

- (3) そこで、指導上の留意点は以下の通りである。

- ・教科書に登場する初めての評論文であることを意識し、評論文とは何かをまず指導する。
- ・本文をプレゼンするという活動を行うことで、生徒が楽しみながら要約を行えるよう工夫する。
- ・意見を活発にするために、ペア活動や、グループ活動を多く取り入れる。
- ・要旨をとらえるために、筆者が最も言いたかったことを15字以内でまとめ、交流させる。

5 学習目標

- ・評論文とはどんなものか理解できる。
- ・筆者目線でプレゼンをし、筆者の主張について考えを深めることができる。
- ・筆者が最も言いたかったことはなにか、根拠をもって説明できる。

6 学習指導計画……………全4時間

- (1) 本文を音読し、評論文の構成を理解する。……………1時間
- (2) 本文を要約し、筆者目線でプレゼンをする。……………2時間
- (3) 筆者が最も言いたかったことは何か、考える。……………1時間(本時)

7 本時の目標 (1 / 4)

- ・ 評論の定義と構成を理解し、説明することができる。

本時の活動

学習内容及び学習活動	予想される生徒の変容	指導上の留意点
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材の内容に興味をもち、「最後の晚餐」について知っていることを述べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材について関心を持たせるため、「最後の晚餐」について知っていることを述べさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>評論文のしくみを理解しよう。</p> </div>		
<p>1. 音読する。</p> <p>2. 本文を2つ（序論/本論 or 本論/結論）にわけける。</p> <p>(1) プリントに線を引く。</p> <p>(2) その根拠をノートに1行でまとめる。</p> <p>(3) ペアで交流する。</p> <p>(4) 全体で交流する。</p> <p>3. 序論・本論・結論に何が書かれているのか確認する。</p> <p>4. 「説明文」と「評論文」について、プリントで確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文を読み直して、それを2つにわけようとする。 ・ 段落のつながり等を考え、分けられるところがどこなのか探そうとする。 ・ 根拠をノートに短くまとめようとする。 ・ 自分の意見と、相手の意見を比較して考える。 ・ しっかりと自分の意見を発表しようとする。 ・ 分からない語句については、辞書を引いて調べようとする。 ・ 筆者が論じている最後の晚餐を自分の好きなものに置き換えてワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書では序論・本論・結論が一行スペースで分けられているため、教科書を使わずにスペースをなくしたプリントを配布する。 ○ 作業が進まない生徒がいれば、部分的な段落のつながりを指摘するなど助言する。 ○ 全員が意見とその根拠を持てるように、机間指導に力を入れる。 ○ 全員を立てて発表させることで、全体で授業に参加する、という雰囲気を作る。 ○ 時間に余裕があれば、「説明」と「評論」について、辞書で調べて、プリントに記入する。 ○ 他の人の意見もノートにまとめるよう指示する。 ○ 残り時間を考え、音読をする/しない等を決める。 ○ 例を示しながら、説明する。 ○ 時間があれば、短い評論文を書いてみるよう指示する。

評価 (ノート)

- ・ 根拠をもって本文を序論・本論・結論の3つに分けることができる。
- ・ 説明文と評論文の違いについて説明することができる。

7 本時の目標（2 / 4）

- ・本文を要約し、筆者目線でプレゼンができる。

本時の活動

学習内容及び学習活動	予想される生徒の変容	指導上の留意点
5. 音読する。	・大きな声で音読しようとする。	○生徒に飽きがこないように、工夫のある音読をする。
筆者になりきってプレゼンをしよう。		
6. 4人グループでプレゼンの準備をする。 (1) 1人1人が、どの部分を担当するのか決定する。 (2) 自分の担当部分をプレゼンできるように準備する。 (3) グループの中で練習をする。	・グループ全員が参加するプレゼンなので、自分の担当部分に責任を持ってやり抜こうとする。 ・担当箇所を話し合っ決めてようとする。 ・本文に線や矢印を記入して、自分なりにプレゼンの準備を進めようとする。 ・自分の担当部分だけでなく、他の人の担当部分についても考え、グループ全体の発表をよりよいものにしようとする。	○グループ全員で一つのプレゼンを作成する、ということを強調し、1人1人に責任を持たせる。 ○話し合いが長引くようであれば、教師がそのグループの担当を決定する。 ○3人グループや5人グループが出来る場合があるので、その場合はどのように担当を割り振るのか、考えておく。 ○机間指導に力を入れ、どのグループにどのような特徴があるのか把握しようとする。
7. 時間を計ってプレゼンをする。	・設定された時間を意識しながら、プレゼンをしようとする。	○机間指導をしている時に、プレゼンの準備が進んでいるグループをチェックしておき、次時、全体に発表をさせる。
8. 修正をする。	・自分たちのグループが、目標となる時間に近づくためには、どうすればよいのか、グループで考えようとする。	○グループ全体のプレゼンが、設定された時間に近づくのが目標であることを示し、自分の担当部分以外にも注目するよう指示する。
9. 前後のグループでお互いに発表をする。	・他のグループの良い点、改善点をノートにメモしようとする。	○他のグループの発表を聞きながら、よい点、改善点があれば、ノートにメモするよう指示する。

評価（プレゼン／ノート）

- ・本文を要約し、筆者目線でプレゼンができる。
- ・他のグループを見て、その改善点などをメモし、自グループのプレゼンに活かすことができる。

7 本時の目標 (3 / 4)

- ・本文を要約し、筆者目線でプレゼンをできる。

本時の活動

学習内容及び学習活動	予想される生徒の変容	指導上の留意点
筆者になりきってプレゼンをしよう。		
10. 前時のグループ交流の続きをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のグループと比較しながら、他のグループのプレゼンを集中して聞こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他のグループの良い点・改善点などがあれば、ノートにメモするよう指示する。
11. 1つのグループがクラス全体にプレゼンをする。 (1) そのグループの改善点を考える。 (2) プレゼンに欠かせない要素をいくつか決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの良い点・改善点を考え、自分達のプレゼンに活かそうとする。 ・プレゼンに欠かせない要素を考え、それを省いてしまっていた場合は、プレゼンを修正しようとする。 ・時間も考えて、プレゼンを修正しようとする。 ・自分の担当部分以外についても、考えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時チェックしていた、プレゼンの準備が進んでいるグループに、前でプレゼンをさせる。 ○時間にこだわりすぎて、必要な部分をも省いてしまっていないか、生徒の問いかける。 ○欠かせない部分を、省いてしまっている場合は、それをプレゼン内容に含むよう指示する。 ○次に時間を計ってプレゼンを練習することを示し、生徒に時間についても意識させる。
12. グループでプレゼンを修正する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を読むだけのプレゼンにならないよう、気をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読むだけのプレゼンになってしまっていないか、生徒に注意を呼びかける。
13. プレゼンをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のグループと比較しながら、他のグループのプレゼンを集中して聞こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他のグループの良い点・改善点などがあれば、ノートにメモするよう指示する。
14. 全体に向けて、いくつかのグループがプレゼンをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの良い点・改善点を考え、自分達のプレゼンに活かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間があれば、再度プレゼン修正の時間をとる。
15. 筆者の一番言いたかったことは何か、根拠と合わせてノートに記述する。	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者になりきってプレゼンをしたことを活かし、筆者が一番言いたかったことは何か、根拠を持って、まとめようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本文を通して、筆者が一番伝えたかったことは何なのか、前時までの授業についても振り返りながら、考えるよう指示する。

評価 (プレゼン/ノート)

- ・本文を要約し、筆者目線でプレゼンをできる。
- ・筆者の一番言いたかったことは何か、根拠と合わせてノートに記述できる。

7 本時の目標 (4 / 4)

- ・筆者が一番言いたかったことは何か、根拠と合わせて考えることができる。

本時の活動

学習内容及び学習活動	予想される生徒の変容	指導上の留意点
<p>16. 一つのグループが、全体に向けて、プレゼンをする。</p> <p>聞いている人は、ノートに良い点・改善点をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のグループと比較しながら、他のグループのプレゼンを集中して聞こうとする。 ・他のグループの良い点・改善点を考え、ノートにまとめようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○最初に本文を要約したプレゼンをすることで、生徒に本文の内容をつかませる。 ○机間指導をして、記入する準備ができてない生徒がいれば、準備するよう指示する。
<p>筆者が一番言いたかったことは何か、考えよう</p>		
<p>17. 筆者が一番言いたかったことは何か、考える。</p> <p>(1) 前時まとめた意見を発表する。</p> <p>(2) 自分の意見の根拠を発表する。</p> <p>(3) 全体で交流する。</p> <p>(4) 違った目線から、本文の要旨について考える。</p> <p>3. 筆者が一番言いたかったことは何か、15字以内でまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な意見があることに気づく。 ・いつの時代でも、芸術は永遠。 ・最後の晚餐を、自分の目で見てほしい。 ・印象で根拠を決めるのではなく、本文中から根拠となる部分を探そうとする。 ・文章中の表現から、根拠を見つけ、自分の意見を述べる。 ・四つの視点に分類できることに気づく。 ・「レオナルド」 ・「最後の晚餐」 ・「絵の見方」 ・「芸術」 ・最初の自分の意見と比べ、どうして、変わったのか変わらなかったのか、を考えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の最後にまとめた意見をもとにする。 ○発表する前に、根拠をまとめさせる時間をとる。 ○気になる点があれば、メモしておくよう指示する。 ○同じような意見は、まとめて生徒が理解しやすいようにする。 ○他の人の意見を聞き、納得できない点・よくわからない点があれば、反論・質問させる。 ○気になる点があれば、メモしておくよう指示する。 ○意見と、その根拠について、いくつかの観点から、絞込みを行ない、生徒が違った目線から、本文の要旨について考えられるようにする。 ○机間指導中に、意見が最初と変わって、根拠もしっかり説明できそうな生徒を見つけておき、発表を求める。

評価

- ・本文の要旨について、根拠を持って、読むことができる。(ノート)